

新評論

2019
5
No.293

発行所 © 新評論 2019年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税抜



ゲントの祭壇画「神秘の子羊」(ファン・エイク兄弟、ゲント、聖バヴォン大聖堂、1432)の開かれた中央パネル下段部分。奇蹟的にわれわれに伝えられたこの無二の作品は、神秘の子羊(=イエス)の流す血が人類の罪を贖ったことを表している。ゲント市民は天国の草原とそこに集う選ばれた者たちの存在をこの絵に読み取り、天国が眼前にあると思ったに違いない。

古代から近代まで、西洋の文物と科学を刺激し続けたキリスト教的「幸福=天国」観の生成と解体。宗教的心性史研究の金字塔

〈楽園の歴史〉Ⅲ (全3巻完結) 喜びへの希望

ジャン・ドリュモー／西澤文昭・永見文雄 訳

◆ジャンル: アナール歴史学／西洋心性史

本書は西洋キリスト教文化圏における宗教的心性史研究の最高峰、〈楽園の歴史〉三部作の最終巻にあたる。第Ⅰ巻「地上の楽園」ではキリスト教初期の時代から十八世紀まで、西洋の心性と多くの学究が素朴にかつ真剣に挑んできた「地上の楽園探し」(「創世記」のエデンの園はこの世のどこにあるのか)の総体を明らかにした。続く第Ⅱ巻「千年の幸福」では、千年王国論という異端の思想が歴史の伏流として同時に存続し、時代が動くたびにその影響力が突出した形で現れてくることを論証した。

一方、第Ⅲ巻の本書「喜びへの希望」は、天国に幸福を求めた人類の努力とその帰結、すなわち、宗教的心性が各時代の学芸・文化をいかに刺激し発展させてきたのか、またそれらによって生み出された「天国」の形象が近代によっていかに解体されたかをたどる探究の書となった。そもそも、西洋的幸福感を強力に支配してきた天国とはどのように定義されてきたのか。その位置は、形状は、そこに住むのは誰なのかなど、無数の問いに対する回答が彫刻・絵画・音楽・建築物といったさまざまな文物によって提出されてきた。著者ドリュモーは、膨大な一次資料と考証によって「天国」を解き明かすが、三十一章にわたる長い探究の案内人として彼が選んだのは、十五世紀

ネーデルラント絵画の鼻祖、ファン・エイク兄弟の手になるゲント(「ヘント・ベルギー」)の祭壇画(「神秘の子羊」)である。われわれは本書のさまざまな議論をたどつた後、「天国」を決定づけたこの奇蹟の作品に立ち返ることを求められ、結論をそこに見出すことになる。また、天国の形象を作り出したさまざまな文物への精緻な分析に立ち会いながら、「神秘の子羊」に描かれた細部を読み直すことになる。こうした往還はおそらく、西洋キリスト教文化を支えてきた「人間の営為」そのものの理解へとわれわれを誘うはずである。

『恐怖心の歴史』(一九七八・邦訳一九九七年)から始まる著者の心性史研究のテーマは「恐怖心」から「安心感」、そして「幸福感」へと至るべく構想されていた。本書はまさに、著者が当初より見定めていた宗教的心性史研究の未踏の到達点である。

(にしざわ・ふみあき 中世フランス文学)

ISBN978-4-7948-1123-3

6月刊

A5上製 七二〇頁 予九〇〇〇円

〈楽園の歴史〉全3巻

Ⅰ 地上の楽園

西澤・小野瀬訳

四二〇〇円

Ⅱ 千年の幸福

小野・杉崎泰一郎訳

七〇〇〇円

Ⅲ 恐怖心の歴史

永見・西澤訳

八五〇〇円

罪と恐れ

佐野・江花・久保田・江口寺道訳

一三〇〇〇円

安心と加護

(未刊)

父親の歴史、父性の歴史

(未刊)

J.ドリュモーの本

著者 Jean DELUMEAU 1923年フランス・ナント生まれ。フランス歴史学を代表するアナール派第三世代の歴史家。75-94年コレージュ・ド・フランス教授。中世後期から18世紀の宗教的心性史研究の第一人者。その著作は各国語に翻訳され高い評価を得ている。



テロリストたちの膨大なデータを独自の視点で読み解き、20世紀末以降欧州の若者を「死と暴力」に駆り立ててきたものの正体を剥出

ジハードと死

パリ同時多発テロ（2015年11月13日）後、フランスでは本書Le djihad et la mortを含め、「新たなジハーディズム」を理解しようとする研究やエッセイがたてつづけに刊行されたが、本書はその非宗教性を指摘した点で他と一線を画している（撮影：Chris93）

オリヴィエ・ロワ／辻 由美 訳

◆ジャンル：テロリズム／イスラーム過激派／政治学／社会学

「イスラーム国」を自称するISIL（本書では「ダーイシュ」と表記）を含め、イスラーム過激派によるテロに関しては、すでに多くの著作が書かれているが、本書の著者オリヴィエ・ロワは独自の視点からこの問題に切り込む。

「イスラームが過激化したのではなく、現代の過激性がイスラームのなかに入ってきた」、彼はそう主張するのだ。

そのさう著者は、イスラームの歴史という縦断的なアプローチではなく、十九世紀のアナーキストにはじまり、文化大革命期（一九六〇～七〇年代）中国の紅衛兵、一九七〇～八〇年代の日本赤軍やドイツ赤軍、クメール・ルージュなどによる大量殺戮、さらには一九九〇年代のカルト教団の「集団自殺」を経て、現在のジハーディズムにいたるまでの暴力の系譜を横断的に辿ることで、現代のテロリズムを分析しようと試みる。

研究のベースとなっているのは、膨大な数のテロリストのプロファイルである。大量殺人に手を染めた人たちの履歴を具体的に調べると、現代の若いテロリストに共通するつぎのような横顔が浮かびあがる。

西洋社会にどちらかといえばよく同化した移民の第二世代に属していること。信仰とはほとんど無縁の生活をおくっていたのが、軽犯罪を犯したことを機に獄中でイスラーム過激思想と接したこと。多くの場合、過激思想への「目覚め」からきわめて短期間のうちにテロ行為に走っていること。さらには、改宗者がきわめて大きな割合を占めること。

なぜジハーディズムがこうした若者たちを惹きつけるのか？ 著者はその答えを、現代のテロ組織の特徴——世代主義、死への希求、若者文化への徹底的な適応（音楽や映像の多用、コミュニケーション手段の共有など）——に見出している。たとえISILが壊滅しても、若者が死と暴力に自己実現を託す現象は形を変えて続くだろう。本書は、過激派の「魔法」を解くためには、まずはその現象を冷静に読み解く必要があると訴えているように思われる。（つじ・ゆみ 翻訳家）

ISBN978-4-7948-1121-0 5月下旬刊
四六並製 予一九二頁 予二〇〇〇円

好評刊 グローバル・ジハードのパラダイム
（パリを襲ったテロの起源） 三六〇〇円
シル・ケルナン・アントワヌ・シャルダン／義江真木子訳

著者 Olivier ROY 1949年生まれ。政治学者。パリ政治学院、フランス国立東洋言語文化研究所卒。フランス国立科学研究センター主任研究員、フレンツェ欧州大学院主任研究員。本書や「世界化したイスラーム」(L'Islam mondialisé)などの著作は大きな反響を呼び、英語をはじめ多数の言語に翻訳されている。



赤の市庁舎前の歩行者専用ゾーンにて、異なる世代が思い思いに過ごす。

恋愛、結婚、キャリア…人間関係に悩むドイツの「ロスジェネ」たちの本音をユーモア豊かに、時に辛口に綴る大人気コラム、日本上陸!

大事なことがはっきりする ささやかな瞬間

関係づくりが苦手な世代

ミハエル・ナスト／小山千早 訳

◆ジャンル:ロスジェネ問題／社会学

私がスイスに移り住んだのは三〇年前、その当時からヨーロッパでは結婚年齢が上昇傾向にあった。当時の日本では、二五歳を過ぎた未婚女性は「二六日のクリスマスケーキ」などと言われ、少々肩身の狭い思いをしたものだ。だが、今や日本も男女ともに結婚年齢は上がる一方だし、すでに三〇年前のスイスではごく普通のこととなっていた事実婚や、生涯結婚しない人の数も増えていると聞く。つまり、日本のライフスタイルがヨーロッパに近づいてきたということだろう。

本書の著者ナストは一九七五年生まれのドイツ人男性。日本ではバブル崩壊後の就職氷河期に社会に出た「ロスジェネ」と呼ばれる世代と同年代にあたる。彼は年の近い知人や友人から聞いた話を糸口に、ドイツ社会や自分たちの世代が抱える問題（人間関係・恋愛・結婚・キャリアをめぐる悩みやとまどい）を綴っているのだが、その語り口はざっくりばらんでユーモアたっぷりだ。しかし、うわべにとらわれた人生観やトレンドに身を任せたいライフスタイルを観察する目は鋭い。本書の観察や分析は、おそらく誰もがふと考えたことがあって、しかも口にするのがはばかられるようなものが多い。

そのせいだろう、はじめウェブマガジンで公開された時は、サーバーがパンクするほどの閲覧数を記録したという。大勢が言葉にできずにいた思いを、著者が代弁したというわけだ。

文化や歴史の違いはあるものの、同じ工業国として日本とドイツの置かれた状態には類似点が多く見られる。少子高齢化とそれにともなう結婚形態の問題もかなり共通している。本書を読んで思わずうなずき、共感を覚える方は多いはずだ。ベルリンの霧囲気をお伝えするため、原書にはない風景写真を多く掲載したので、目も楽しませつつ、ドイツを一種の鏡として日本社会の問題を考えていただけたらうれしい。（こやま・ちはや 翻訳家）

ISBN978-4-7918-1135-7

5月刊

四六並製 二四〇頁 予一八〇〇円

スイスの使用説明書

T・キング&P・シュナイダー／小山千早訳

二五〇〇円

お金と幸福のおかしな関係

（トレッドミルから降りてみませんか）

M・ピンズヴァンガー／小山千早訳

二八〇〇円

若者はなぜ大人になれないのか

（家族・国家・シティズンシップ）

G・ジョーンズ&C・ウーレス／宮本みち子監訳

著者 Michael NAST 1975年東ベルリン生まれ。はじめ書店に勤めるが、本を読むのが苦になり半年で辞め、広告代理店などに勤めたのち2007年からブログを書き始める。SNS「MySpace」で公開した「大都市コラム」がヒット。

黙示のエチュード

マニエル・ヤン

〔歴史的想像力の再生のために〕

世界各地の抵抗の営みを巨大な射程で見つめ、「3・11」後の黙示的日常を生き抜く民衆の力を析出。歴史社会学の異才、待望の単著！

ISBN978-4-7948-1113-4 近刊

四六上製 三三六頁 予二八〇〇円

著者 Manuel YAN 日本女子大学人間社会学部現代社会学科教員。専門は歴史社会学、民衆史。アメリカと環太平洋／大西洋の歴史を階級闘争の観点から研究。

議論と翻訳

桑田禮彰

〔明治維新期における知的環境の構築〕

現在の危機の本源は議論の劣化にある。議論環境の再構築へ！

四六並製 五八〇頁 四八〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1110-3



梅根悟

中野光

〔その生涯と「こと」〕 梅根の前に梅根なし、梅根の後も梅根なし」と言われた教育界の巨人の決定版評伝！

四六並製 二四四頁 二二〇〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1116-5

写真記録・三島由紀夫が書かなかった近江絹糸人権争議

本田一成

〔絹とクミアイ〕 日本を震撼させた熾烈な労働争議の全貌を二〇〇点超の写真で再現！歴史的闘争が今甦る。

A5並製 二五六頁 二四〇〇円

最新刊
ISBN978-4-7948-1118-9



京都からみた、日本の老舗、世界の老舗

松岡憲司編著

常に挑戦を忘れず命脈を保ってきた京都の老舗。東京、金沢、イタリア、中国との比較分析からその革新性に迫る。

A5上製 三〇四頁 二八〇〇円



最新刊

ISBN978-4-7948-1119-6

筑後川まると博物館

筑後川まると博物館運営委員会編

〔歩いて知る、自然・歴史・文化の一四三キロメートル〕 壮大な野外ミュージアムの魅力を伝えるガイドブック。

A5並製 二七二頁 二四〇〇円

最新刊
ISBN978-4-7948-1120-2



メイド・イン・トーキョー

関満博

〔墨田区モノづくり中小企業の未来〕 製造業から伝統工芸まで103事業所訪問、空前絶後の墨田区産業大全！

A5上製 五八四頁 八〇〇〇円



好評刊

ISBN978-4-7948-1115-8

国際産業立地論への招待

鈴木洋太郎

〔アジアにおける経済のグローバル化〕 激動のアジア経済を地理的・空間的に読み解く画期的入門書。

四六上製 二四四頁 二四〇〇円

好評刊
ISBN978-4-7948-1109-7



村山朝子『ニルスのふしぎな旅』と日本人

自然と人の関係 地理から探る

■『北海道新聞』2019年2月17日(日)「訪問」

小人にされた少年がガチヨウに乗ってあちこち旅する物語『ニルスのふしぎな旅』が誕生して100年余り。いまでも子供たちの冒険心をくすぐる名作だ。さて問題です。ニルスの舞台となった国はどこでしょう。①カナダ ②スウェーデン ③フランス

ヒント1 世界有数のマッチ生産国。ヒント2 トナカイ遊牧民がいる。ヒント3 国土の約6割が森林

答えは②。ニルスはスウェーデンの小学生が国土を理解するために書かれた地理読本だった。ガチヨウたちと一緒に南から北へ旅する過程で、マッチ工場の上空を飛び、森林や畑が広がる風景の魅力を伝えた。

村山さんは茨城大の教授。地理

教育に携わり、中学校社会の教科書作成に関わってきた。ニルスに出会って四半世紀。「地理を学ぶことを意識せず、ワクワクする物語を通してスウェーデンを知り、自然と人間の関係性を感じるつもりなんです」

ニルスへの関心が高まったのは1994年、地理学者の夫の研究に同行しスウェーデンに滞在した時だった。この年、ノーベル文学賞に選ばれた大江健三郎さんが同国で記念講演した際、子供のころ大好きだった本にニルスを挙げ、話題になった。

帰国後に全訳を読み「ニルスを知りたい、誰かの話を聞きたい」とエネルギーが湧いた。初の邦訳『飛行一寸法師』を18年(大正7年)に出した香川鉄蔵さんについては、

遺族に話を聞いたり膨大な資料に当たったりするなかで「評伝を書くのか」と思ったほど魅了された。

大正、昭和、平成の翻訳者や文人の関わりを調べるなかで、芥川龍之介の蔵書のなかに英訳版のニルスを発見。宮沢賢治がニルスを読んだ可能性も探った。「香川さんとこの物語をたどることで、有名無名いろんな人が出てきた。大河ドラマのなかに身を置いているような気持ちになりました」

原作者セルマ・ラーゲルレーブは09年(明治42年)に女性で初めてノーベル文学賞を受賞した。ニルスが誕生した20世紀のはじめスウェーデンは工業化し労働者が必要だったが、多くの国民が新天地を求めて近隣諸国や米国へ渡った。そんな時代にニルスは全国の産業

や自然をリポートする「広報」の役割も果たした。「荒涼とした国土から可能性を秘めた大地へ国土像を変える。人口流出を食い止めることにつながったでしょう」

ニルスが各地でさまざまな出来事を経験し、成長したように、地理は「人生を豊かにする」と言う。「人は風土に影響を受ける。どこでどう生きるか。どこで」が大事です」

(東京報道 上田貴子)

『ニルスのふしぎな旅』と日本人

村山朝子

「スウェーデンの地理読本は何を伝えてきたのか」初邦訳から一〇〇年、世界中で愛されてきた魅力に迫る。

四六上製三〇〇頁、二五〇〇円

『日本経済新聞』書評
ISBN978-4-7948-1106-6



本を売る

本を売るといふこと

先日「全国の気になる出版社フェア」と題するブックフェアを1カ月ほど開催しました。文字通り僕が「なんか面白そうだな」と思う出版社さんや、独自性・地域性の強い本を出しているワン・アンド・オンリーな出版社さん計27社に参加していただいたものです。

このようなフェアを企画した理由は、近隣に住む本好きのお客様に、普段は大型書店に行かないと見られないような多種多様な本を手に入る機会を提供したかったのと、単純に自分自身がやりたいと思ったからです。

フェア期間中は毎週末に参加社の社長や編集者、営業の方々（独立系出版社が多いので、ほとんどの社がお一人でその全てを兼ねておられるのですが）に店頭に立っていただき、自社本のみならず他社の本も紹介したり、缶詰やお菓子の販売、詩の朗読や著者のトークイベントを行うなど、非常ににぎやかなフェアになりました。

当初は通常のフェアと同じように、出版社別に本を陳列し、それぞれの本や出版社を紹介するPOPを付けるつもりでしたが、企画段階から相談に乗っていただいていた堀之内出版の小林さんから「版元さんじきじきに本の説明をしたり、ミニトークショーをやるなど、お祭りみたいにしてしまいうよ」というご提案があり、やり方を変更しました。

期間中の週末はそれこそ祭りのように盛り上がり、結果も予想を大きく上回るものでした。当初の「陳列して終了」というフェアではこうはならなかったと思います。本屋は仕入れた本を見やすく陳列し、お客様に選んでいただく商売だと思えますが、他にもやるべきこと・できることがあるということ、そしてPOSデータには現れてこない面白い本、届けるべき本が多数発行されており、それらをきちんとお客様にご紹介することも、地域最後の書店としての役割なのだと実感したフェアでした。

くまざわ書店 桜ヶ丘店

村上元康

本誌表示価格はすべて税抜です。

●書評 ●紹介 ●関連記事

書評日誌(1・6~2・17)

- 1・6 ④京都新聞、徳島新聞、大分合同新聞『野球母ちゃん』
- 1・9 ④子どもと自然学会通信77号『新装合本 牙王物語』(岩田好宏)
- 1・12 ④日本経済新聞『「ニルスのふしぎな旅」と日本人』
- 1・16 ④広告する日記『乙女たちが愛した抒情画家 落谷虹児』
- 1・20 ④山形新聞、河北新報『野球母ちゃん』
- 1・27 ④山梨日日新聞『野球母ちゃん』
- 1月号 ④Wan『新装合本 牙王物語』
- ④教職研修『「学びの責任」は誰にあるのか』(田中博之)
- ④としょかん通信ぶらす・あるふあ中高生版(全国学校図書館協議会)『ギヴァー 記憶を注ぐ者』(中野怜奈)

- 1/下 出版ニュース「スウェーデン・デザインと福祉国家」
- 2・15 ④バンクビジネス「20代で身につけたい働き方の基本」
- 2・16 ④図書新聞『屈服しない人々』(三輪智博)
- 2・17 ④北海道新聞『「ニルスのふしぎな旅」と日本人』(著者インタビュー)

「朝日新聞」他紹介
ISBN978-4-7948-1108-0



神川靖子／協力・池谷弘子
「そのパワー侮るなかれ」 野球少年を子にもつ母たちの泣き笑いの日々。感動・爆笑必至のドキュメンタリー！
四六並製 二四〇頁 一八〇〇円

野球母ちゃん

本を読む

野球母ちゃん

少年野球に関わって20年、現在チームの代表を務めています。本書に登場する「母ちゃん」たちが、私の妻や選手のお母さん方と重なって見えました。これは子らに教えられ、親・大人が成長していった歴史だと思います。私の母校は富士宮北高で、高3の夏、県大会決勝で静岡高校に敗れました。けれどもひと夏の最高の思い出として残っています。(船橋市 団 体職員 飯山博之 65歳)

梅根悟その生涯と「こと」

梅根先生に教育研修集會でお世話になったこと、「世界教育史」で教養や教育の意味を深く考えさせられたことを思い出しつつ読みました。詳しいご経歴を知らずにアドバイスを受けたり、お話を聞いたりしてききましたので、小中学校

教員時代に教育観の原点があることなどがわかってよかったです。

著者・中野光先生の、梅根先生への敬意にあふれた文章にも感動しました。(秋田市 渡部雅子)

国際産業立地論への招待

アジア産業論はすでにいくつかの良書が出ていますが、産業立地について総合的かつ読みやすく書かれたレベルの高い入門書だ。今後、経済学部や経営学部の良質な教科書としても読まれていくと思う。

(東久留米市 佐久間 章 71歳)

好評刊

オランダ公共図書館の挑戦

(「サービス」を有料にするのはなぜか?)
吉田右子 二五〇〇円

書店人のはんせい

(本はエンターテインメント)
人見廣史 二〇〇〇円

乙女たちが愛した抒情画家 落谷虹児
鈴木義昭 二二〇〇円

ブラボー! 大雪山

写真・文・大塚友記
写真文化首都「写真の町」東川町編 三〇〇〇円

編集部から

3月下旬、米政府はISILの最後の拠点(シリア東部バグズ)を完全に制圧したとして「勝利宣言」を出した。しかし問題は終わっていない。「戦闘員が地下に潜っただけであり、脅威は去っていない」という欧米主導の「対テロ戦争」的な認識が重要なわけでもない。問題の根幹は、周縁化された若者たちを「死と暴力の文化」(オウムをはじめとする日本のカルトや終末思想的なサブカルチャーも含め)から解放しないかぎり、悲劇は終わらないということにある。新刊「シハードと死」はそのことを直視させてくれる秀逸なエッセイ。好敵手ケベルの「グローバル・ジハードのパラダイム」もぜひ併読を。今月は「心性」を主題に、視点の独自性がさわだつ新刊が並びました。ご期待下さい!

営業部から

▼直近3ヶ月(2018年12月、2019年2月)弊社の書籍売上ベスト15をご紹介します。

- ①ギヴァー 記憶を注ぐ者
- ②スウェーデンの 小学校社会科の教科書を読む
- ③野球母ちゃん
- ④たった一つを変えるだけ
- ⑤教科書では学べない数学的思考
- ⑥20代で身につけたい働き方の基本
- ⑦「ニルスのふしぎな旅」と日本人
- ⑧最高の授業
- ⑨議論と翻訳
- ⑩「学びの責任」は誰にあるのか
- ⑪あなた自身の社会
- ⑫オーブン・マインド
- ⑬国際産業立地論への招待
- ⑭解体新書「捕鯨論争」
- ⑮屈服しない人々

SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにてお名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。